

現場全体のトータルコストの低減 ICT施工！

ICT建機で
課題の人材不足も解消

今回の現場は、福島県伊達市霊山（りょうぜん）を通る東北中央自動車道の道路改良工事。施工する土の量は掘削300,000m³・盛土400,000m³、総延長3.6kmの大型工事だそう。施工するのは丸磯建設(株)東北支店様。導入の経緯を黒岩所長に聞いた。「工期短縮を一番に考えてるけど、最近はおペレータ不足が深刻な問題になっていて人員の確保が難しい。ICT建機なら経験が浅くても施工が進められ、丁張設置を待たずに現場に入れる。そして、工期短縮も期待し導入を決めました。」と教えてくれた。また「コスト面からみても機械代だけじゃなく、現場全体をトータルで考えると、コストも抑えられる。」と話した。この現場には当初、搬入されたICT建機はD37PXi1台だったが、施工スピードの速さにもう1台追加導入し、合計2台のD37PXiで現場を進めたそうだ。



土木部課長 黒岩大助さん



土木部 岩野良幸さん

福島県
丸磯建設(株)東北支店 様

創業1955年

企業理念「信頼・革新・貢献」

全国に支店を配し日本の礎を築く

多くの工事に携わっている。

ICT建機に初期の段階より注目し数多

く取り入れている。

掲載月:2018年6月

ICT建機も使い方次第
変わる現場風景

現場ではブルドーザを初心者・中堅者・熟練者3名のオペレータで進めていて、オペレータ歴30年の岩野良幸さんに感想を聞いた。「ほとんどの機械の操作は出来ますが、ICTブルドーザが来た時、こんな建機で施工が出来るのかなと思ったよ。」と最初の印象を話した。

「制御されたブレードで施工スピードがどんどん上がるね。道路の切土箇所では、法尻の両サイドをD37PXiを測量の代わりに使い目印を作り、その間を従来の油圧ショベルで荒掘削を行い最終仕上げを再度D37PXiで施工しました。ICTブルドーザは、モニタで施工していない場所を色で把握しながら施工できるので、現場を止めることなく、効率よく進みました。」と教えてくれた。またICT建機は設計図面を元に施工が進む為、建機の周りに作業員がいないので、日が落ち、暗くなっても安心した施工を行う事が出来たそうだ。最後に黒岩所長は「これからも新しい技術に挑戦していきますよ。」と話した。

